MYU 2023

Public University Corporation MIYAGI UNIVERSITY

令和５年度入学

宮城大学入試ガイド

入学者選抜に関する問い合わせは
宮城大学 アドミッションセンター

大和キャンパス／〒 981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1
TEL.022-377-8333　FAX.022-377-8282
宮城大学ウェブサイト https://www.myu.ac.jp/

宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

Contents

総合型選抜

1. 選抜方法と日程 ―― 3
2. 総合型選抜はこんな方にオススメ！ ―― 4
3. 総合型選抜の概要
   （1）出願書類 ―― 4
      自己申告書（1 ページ目） ―― 5
      自己申告書（2 ページ目） ―― 6
   （2）第 1 次選考 ―― 7
      レクチャー①・レクチャーレポート ―― 7
   （3）第 2 次選考 ―― 9
      レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート ―― 9
      面接（口頭試問を含む。） ―― 10

学校推薦型選抜

1. 選抜方法と日程 ―― 12
2. 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！ ―― 12
3. 入試科目「面接」の概要 ―― 12

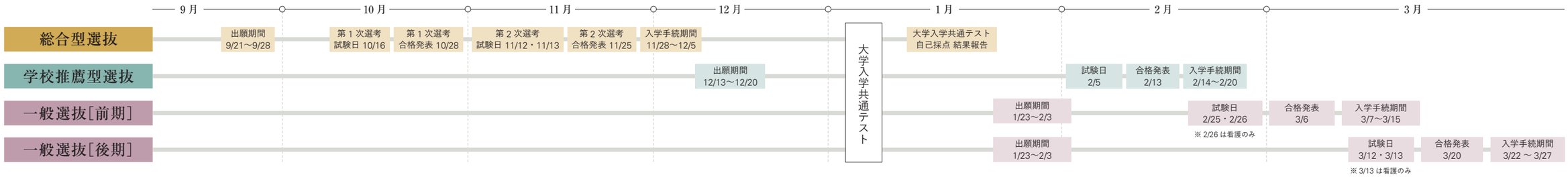
一般選抜［前期・後期］

1. 選抜方法と日程 ―― 13
2. 大学入学共通テストおよび個別学力検査の科目等 ―― 13
3. 入試科目「論説」の概要 ―― 15
4. 一般選抜における主体性等の評価 ―― 16

入学者選抜方法についての Q & A ―― 17

令和 4 年度入学 入試結果 ―― 19
令和 4 年度出身校所在地別志願者数・入学者数 ―― 19

Schedule 令和 5 年度入学　入試スケジュール



令和 5 年度入学 宮城大学入学者選抜方法

新型コロナウイルス感染症の感染状況等により，令和 5 年度入学者選抜については，選抜方法や選抜日程の変更等の可能性がありますので，あらかじめご承知おきください。なお，選抜方法や選抜日程に変更等が生じる場合は，速やかに本学ウェブサイトにて公表いたします。https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/

学類単位の入試

総合型選抜 （P.3 参照）

入試科目

各学類	第 1 次選考		1. レクチャー① 2. レクチャーレポート	3. 提出書類
	第 2 次選考	1 日目	1. レクチャー②	2. グループワーク 3. ふりかえりレポート
		2 日目	4. 面接（口頭試問を含む。）	
		5. 提出書類		

●レクチャー①，レクチャーレポート，提出書類による第 1 次選考を行い，合格者に対して第 2 次選考を行います。第 2 次選考では 2 日間の試験を通して，「課題を設定し，見通し，解決し，振り返る力」を評価します。
●高等学校長からの推薦は要しませんので，どなたでも出願できます。
●本学が指定する大学入学共通テスト科目を受験していただき，入学手続後に自己採点のスコアを提出していただきます。
●本学の一般選抜や学校推薦型選抜との併願ができます。

→ 入学時に決定した学類のまま，2 年次に進むことができます。

※原則として，途中で学類を変更することはできません。

※このほか，外国人留学生入試を実施します。

学群単位の入試

学校推薦型選抜 （P.12 参照）

入試科目

各学群	大学入学共通テスト	面接

●大学入学共通テストの受験を課し，合計点を総合判定の一部として利用します。
●本学の一般選抜や総合型選抜との併願ができます。

一般選抜［前期・後期］ （P.13 参照）

入試科目

		個別学力検査		
看護学群	大学入学共通テスト	外国語	論説	面接
事業構想学群		外国語	論説	数学
食産業学群		外国語	理科	数学

→ 2 年次進級時に，学類配属を決定します。

※看護学群は 1 学類のため，全員が看護学類で学ぶことになります。

※このほか，社会人・帰国子女入試を実施します。

総合型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員

看 護 学 群：看護学類８名
事業構想学群：事業プランニング学類８名 ／ 地域創生学類８名 ／ 価値創造デザイン学類８名
食 産 業 学 群：生物生産学類８名 ／ フードマネジメント学類８名

大学入学共通テストの受験が必要です。
大学入学共通テストの出願期間については，大学入試センターが発表する実施要項を確認してください。

出願期間

令和４年９月 21 日（水）～令和４年９月 28 日（水）【期間内必着】

第１次選考

令和４年 10 月 16 日（日）

第１次選考では，次の活動と出願書類により選考を行います。

レクチャー①	講師によるレクチャー（あるテーマについて，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
レクチャーレポート	レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
自己申告書〈出願時に受験者が作成〉	自己を推薦する文章および学修計画に関する文章を作成する。
調査書〈出願時に出身高校等で作成〉	高校等での学業成績や活動の記録・評価等を記載する。

第１次選考合格発表

令和４年 10 月 28 日（金）

第２次選考

第２次選考では，第１次選考に合格した方に対して，２日間の活動を通した選考を行います。

１日目〈令和４年 11 月 12 日（土）〉

レクチャー②	講師によるレクチャー（レクチャー①のテーマを踏まえた内容について，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
グループワーク	レクチャー②に関するテーマについて，少人数のグループで議論を行う。
ふりかえりレポート	一連の過程を振り返り，自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。

２日目〈令和４年 11 月 13 日（日）〉

面接（口頭試問を含む。）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問，志望する学類への意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では，「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。

第２次選考合格発表

令和４年 11 月 25 日（金）

入学手続き後

本学入学後の指導の参考とするため，令和５年度大学入学共通テストにおいて，本学が指定する科目を受験し，自己採点結果を報告していただきます。

2 総合型選抜はこんな方にオススメ！

・大学で学びたいことや，進みたい学類が決まっている方
・学類での学修に対する強い意欲や高い資質のある方
・高等学校までの総合的な学習（探究）の時間等で問題解決型の活動に意欲的に取り組んできた方

3 総合型選抜の概要

重視する「高校等での学習」の成果

総合的な学習（探究）の時間や各教科等での，①問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習，②互いの考えを伝え合い，自身の考えを発展させる等，他者と協働して課題を解決する学習，③自ら得た情報を分析・評価し，まとめ，表現する学習等

例：総合的な学習（探究）の時間での探究活動・協働的な学習・言語活動，SSH での科学的探究活動，SGH でのグローバル探究学習，専門高校でのプロジェクト学習等

総合型選抜で評価する資質や能力

これまでの学習に基づく学力の基盤や，高校等での探究的活動に裏付けされた課題発見・解決能力に加えて，自身の興味や関心に基づいた，学類での学修に対する強い意欲や高い資質

（１）出願書類

自己申告書は受験者本人が作成したものを，調査書は高校等で作成されたものを提出してください。

①自己申告書（１ページ目）

自己申告書（１ページ目）の内容	これまで（主に高校等）の学習成果やそのことによって得た自身の強みについて，事実に基づいて示し，自己を推薦する文章を作成する。 ※ P.5 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	高校等での学びの実践を通して，主体的に学び考え，自ら課題を設定し，興味や関心を追究する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	これまでの学習や活動の実績に裏付けられた自身の強みについて，根拠を提示しながら，筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

②自己申告書（２ページ目）

自己申告書（２ページ目）の内容	志望する学類への興味や関心をもとに，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために「何を」「どのように」学びたいか，自身の学びの展望を提示し，学修計画を立てる。 ※ P.6 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	見通しをもって，自身の興味や関心をよく整理した上で，入学後の目標を設定し，その実現に向けた道筋を計画する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	自ら志望する学類への興味や関心をもとに，志望する専門分野の学問的意義や社会的位置付けを関連させながら志望する学群・学類を卒業した後の目標を設定し，その実現に向けた自身の展望を，根拠を提示しながら，筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

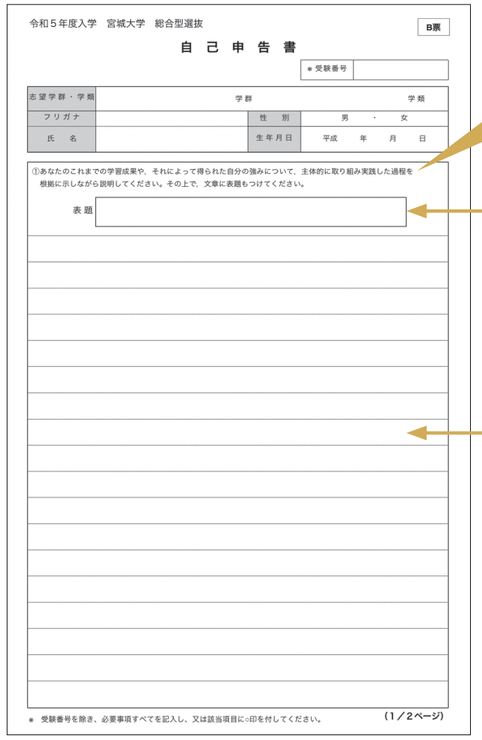
③調査書

評価する資質や能力	・高校等での学業成績（評定平均値を含む。）等の観点からみた学力の基盤。 ・調査書における「指導上参考となる諸事項」および「総合的な学習（探究）の時間の内容・評価」やその他の記載事項からみた学習内容　等 ※総合的な学習（探究）の時間を履修しなかった者（研究開発学校，専門学科）については，総合的な学習（探究）の時間に代わる活動の内容・評価を記した副申書をもって代えることができる。

自己申告書（1 ページ目）　これまでの学習成果やそのことによって得た自身の強みを PR する

作成にあたって

・学習成果とは，各教科の学習（総合的な学習（探究）の時間を含む。），ホームルーム活動，生徒会活動および学校行事での成果のことを指します。課外の部活動や学外活動（ボランティア活動等）について述べる場合も，各教科の学習（総合的な学習（探究）の時間を含む。）やホームルーム活動，生徒会活動および学校行事と関連づけて書いてください。
・学習成果は，「～を経験した」「～ができた」「～の成果を残した」という事実や結果の列挙だけではなく，そこに至るまでの過程や，どのように考えて活動したか，また，それらを通して自分が何を学んだか等を具体的に書いてください。
・高等学校等での学習（例えば探究学習等）を通して得た「これだけは誰にも負けない」という自分の強みについて書いてください。
・他人の言葉や書籍・インターネットから引用するのではなく，自分の経験を踏まえ，自分の言葉で書いてください。


令和５年度入学　宮城大学　総合型選抜　B票

自　己　申　告　書

＊受験番号

志望学群・学類	学群　　学類		
フリガナ		性　別	男　・　女
氏　名		生年月日	平成　年　月　日

①あなたのこれまでの学習成果や，それによって得られた自分の強みについて，主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。その上で，文章に表題もつけてください。

表題

＊ 受験番号を除き、必要事項すべてを記入し、又は該当項目に○印を付してください。　（1／2ページ）

①あなたのこれまでの学習成果や，それによって得られた自分の強みについて，主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。その上で，文章に表題もつけてください。

自己を推薦する文章に表題をつけ，記入してください。

・枠内でのみ作成してください。
・手書きの文章のみ可。ワープロの使用，図や写真の挿入は不可とします。
・資料（賞状の写し，新聞記事，論文，ＣＤ等）の添付は認めません。

作成のポイント

・これまでの学習のなかで，課題を自分で見つけて，それを解決するための活動や情報収集を行った経験があれば，その過程を具体的に記載しよう。
・その結果，どのようなことが得られたのか，学習と得られたこととのつながりがわかるように記載しよう。
・学習の過程で，新しい気づきがあったか，自分の強みは何か，振り返って考えてみよう。自分を分析してみることが大切！
・ほかの人にはない自分の特徴をアピールしよう。

自己申告書（2 ページ目）　入学後の学びの展望を示す

作成にあたって

・単に「～を学びたい」「～をしたい」ということを書くのではなく，なぜその分野に興味を持ったのか，興味を持ったことに対してこれまでにどのような活動をしたのか等を具体的に書いた上で，入学後の学修に対する自らの展望を説明してください。
・志望する学群・学類が持つ学問的意義や社会的位置付けを明確にしながら，志望分野への強い意欲や，自ら積極的に学ぼうとする姿勢等を，自分の言葉で書いてください。
・大学での４年間の学びにとどまらず，大学卒業後の自分の将来の姿をイメージし，関連させながら書いてください。

B票

フリガナ	
氏　名	

＊受験番号

②あなたが，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために，「何を」「どのように」学びたいのかを計画し，文章で書いてください。

（2／2ページ）

②あなたが，志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために，「何を」「どのように」学びたいのかを計画し，文章で書いてください。

・枠内でのみ作成してください。
・手書きの文章のみ可。ワープロの使用，図や写真の挿入は不可とします。
・資料（賞状の写し，新聞記事，論文，ＣＤ等）の添付は認めません。

作成のポイント

・志望する分野に興味を持ったきっかけや理由を具体的に記載しよう。
・志望する分野に関連することについて，自分で活動したり，調べたりしたことがあれば，必ず記載しよう。
・大学での学びへの熱い思いを記載しよう。将来の「夢」だけではなく，入学後にいつ，何を，どのように学んでいくのかなど，できるだけ具体的に「計画」を立ててみよう。
・大学での学びは，社会ではどんな意味があるのか，調べてみよう。ウェブサイトでは研究内容の紹介もしているので，興味のある分野を覗いてみることもおすすめ！

（2）第１次選考

第１次選考では，以下の活動（レクチャー①，レクチャーレポート）を評価した成績に加えて，自己申告書，調査書の内容を総合的に判定して選抜を行います。

試験科目	内　容	評　価
レクチャー①（50 分）	講師によるレクチャー①を受講します。	レクチャーレポートを対象とします。
レクチャーレポート（80 分）	レクチャー①の内容に関するレポートを作成します。	

レクチャー①・レクチャーレポート

レクチャー①・レクチャーレポートの内容	レクチャー①（あるテーマについて，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し，その後，レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
「高等学校での学習」の成果として重視する点	聴講活動を通して，課題意識をもち，得られた事象や情報を整理･分析し，概要にまとめ，論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し，その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに，自身が探究すべき課題を設定し，高校等での学習や自身の経験をレクチャー①の内容と関連付けながら，その解決への道筋を考察し，論述できる力。

【参考】昨年のレクチャー①・レクチャーレポートの内容例（実際のものと表現は少し異なります。）

〈レクチャー①概要〉

交通手段の発達とグローバル化の進展によって異文化に育った人々との接触機会が日常化し，受け入れる側と訪れる側それぞれに相手方の「想い」を汲み取り，対応する力が求められている。このような現代社会を念頭に，自らの住む地域に対して自らが見出す価値と他者が見いだす価値の相違（レクチャーでは「想いのずれ」と表現）について，海外からの観光客誘致を素材にしてレクチャーを行った。
まず，問題意識の背景を理解するため，戦後の国土開発やリゾート開発，およびそれに伴う訪日外国人旅行者の推移を説明した。その上で，実際の「想いのずれ」を，現代と近代の日本観光から確認した。前者では東京を事例に，都民と欧米訪日客･アジア訪日客との間にある関心の所在の相違を説明し，後者では大正時代にアメリカ人が編集した日本観光案内書と日本政府が発行した日本観光案内書を比較し，関心の所在の相違を説明した。最後に日光を事例に，外国人の評価で国内的評価が浮沈する事例を紹介し，外からの視線に対応する際のバランス感覚の必要性を説明した。

〈レクチャー①資料〉

図表 1　鬼首地区におけるリゾート開発
図表 2　1980 年以降の訪日外国人旅行者数の推移
図表 3　訪日外国人旅行者 (観光・レジャー目的) への調査結果（全国）
図表 4　東京でして欲しいこと，東京でしたいこと
図表 5　体験して欲しい東京，体験したい東京（都市別）
図表 6　大正元年から昭和 16 年までの訪日外国人数の推移
図表 7　『日本帝国案内』,『公認東亜案内』ともに扱うおもな観光地
図表 8　『日本帝国案内』のみが扱うおもな観光地
図表 9　外国人が見出した「日本」の一例～日光
図表 10　日光東照宮の評価

〈レクチャーレポート設問〉

問１　「レクチャー①資料冊子」の【図表５】は，都民が訪日外国人に東京で体験して欲しいと考えていることと，訪日外国人が東京で体験したいと考えていることについて，東京都が実施したアンケート調査の結果である。レクチャーでは都市ごとに違いを読み取ってきたが，アジア全般，欧米全般としての傾向を読み取る場合，以下の設問に答えなさい。
（1）アジアに住む人と都民との間に見出せる「ずれ」について，200 字以内で説明しなさい。なお，解答にあたっては，アジアに住む人の順位の方が高い項目，低い項目をそれぞれ２つ以上例示しなさい。
（2）アジアに住む人と欧米に住む人との間に見出せる「ずれ」について，200 字以内で説明しなさい。なお，解答にあたっては，アジアに住む人の方が順位の高い項目，欧米に住む人の方が順位の高い項目を，それぞれ２つ以上例示しなさい。

⇒ねらい：**指定された図表から情報を的確に抽出・整理し，論理的に説明できる力をみる。**

問２　「レクチャー①資料冊子」の【図表６】に現れた，訪日外国人数の推移に関して，以下の設問に答えなさい。
（1）【表１】は【図表６】に示された訪日外国人数のうち，昭和戦前期の実数を示した表である。この【表１】をもとに，1930 年代初頭 (1930 年から 1932 年)，1930 年代半ば (1935 年から 1937 年) の２つの時期について，その減少率を示した【表２】を完成させなさい。なお，解答にあたっては計算式も示し，数値は小数第１位を四捨五入して答えなさい。

新たに図が示される。

（2）(1) で求めた【表２】の数値に基づき，1930 年代初頭と 1930 年代半ばの訪日外国人数の変化の違いを説明しなさい。また，その違いが生じた理由について，【表３】に示された「昭和戦前期の日本をとりまく国際状況」を参考にして，仮説を立てなさい。あわせて 250 字以内で述べなさい。

新たに図が示される。

⇒ねらい：**指定された複数の図表から必要な情報と求められている値を理解し，分析する力，および導き出した分析結果を別途与えられた世界情勢の時系列情報（年表）と関連付けて推論を立て，説明する力をみる。**

問３　「迎える者」と「訪れる者」との間に存在する「想いのずれ」について，以下の設問に答えなさい。
（1）レクチャーで紹介された，日光一帯に対する外国人の評価の変化を，200 字以内で説明しなさい。なお，解答にあたっては，外国人と日本人，双方の評価に触れながら，根拠となる図表番号を明示しなさい。
（2）身の回りや実際に訪れたことのある場所，高等学校での学習などで扱った地域において，あなたが外国人観光客を増やす方策を考える立場に立った時，あなたは「迎える側」としてどのような意識が必要だと考えますか。(1) で解答した日光における変化，およびあなたのこれまでの体験や学習も踏まえて，300 字以内で述べなさい。なお，解答にあたっては，体験や学習，レクチャー内容など，何に基づいてそのような考えに至ったのか，明示すること。

⇒ねらい：**レクチャー内容を理解し，図表から読み取った情報をベースに，自らの体験もおりまぜつつ，自ら思考し，その結果を論理的に説明する力をみる。**

レクチャー①・レクチャーレポートのポイント

・レクチャー①で説明される内容を，理解しながらしっかりメモしておこう。
・レクチャー①やレクチャーレポートでは，グラフや表が多く出てきます。複数のグラフや表を組み合わせて，どんなことが読み取れるのか，普段から考える癖をつけておこう。
・読み取った内容を文章で適切に表現できるようにしておこう。
・レクチャー①で説明される内容と，高校までの学習内容や自らの体験などを結びつけて理解を深めよう。

総合型選抜

（3）第２次選考

第１次選考に合格した方に対して，２日間の活動を行い，２日間の活動を評価した成績および自己申告書，調査書等の出願書類の内容を総合的に判定して選抜を行います。

選抜日程	試験科目	内　容	評　価
１日目	レクチャー②（50 分）	講師によるレクチャー②を受講します。 レクチャー②の内容は，レクチャー①のテーマを踏まえ，多様な視点等を加えて発展させたものを予定しています。	主としてふりかえりレポートを対象とします。
	グループワーク（60 分）	レクチャー②に関連するテーマについて，少人数のグループで議論を行います。	
	ふりかえりレポート（80 分）	レクチャー②から一連の過程を振り返り，レポートを作成します。	
２日目	面接（口頭試問を含む。）（25 分）	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問および志望する学類への意欲や資質を問う面接を受けます。 １人あたり 25 分間の面接を行います。内訳は以下のとおりです。 ・口頭試問（約 15 分） ・面接（約 10 分）	口頭試問を重視します。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容	レクチャー②（レクチャー①のテーマを踏まえた内容について，さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し，その後，レクチャー②に関連するテーマについて，少人数のグループで議論（グループワーク）を行う。グループワーク終了後，レクチャー②から一連の過程を振り返り，自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。
「高校等での学習」の成果として重視する点	他者と協働して課題を解決することができる力や，課題解決に至るまでのプロセスの中で，自身の思考の変化や深まりに気づく力が身についている。
評価する資質や能力	自身の考えを他者と共有し，進んでグループに貢献する力や，他者の意見や問題提起等を受け，さまざまな意見を比較しながら，自身の思考を展開する力。さらに，自身の思考の展開について，根拠を示しながら，筋道を立てて説得力のある論述ができる力。

【参考】昨年のレクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容例（実際のものと表現は少し異なります。）

〈レクチャー②概要〉

国内の移住に焦点をあて，まず，移住を推進する背景として人口減少あるいは人口の偏在による問題があること，さらに地方への人の流れを作る様々な取り組みがあることについてレクチャーした。そして，地域住民と移住した人との間にある感じ方のギャップや移住者が移住前後で感じたギャップ，移住する側と受け入れる側の想いにずれがあることを紹介した。
移住する側と受け入れる側の双方の立場に立ち，それぞれの考え，感じ方の違いがあることを前提として，その上で，多様な価値観を持つ人々とどのように折り合いをつけて定住を促進していけるか考えていくことが必要であることを説明した。

〈レクチャー②資料〉

図表１　日本の人口推移と将来推計
図表２　人口移動の推移
図表３　現代における人口減少の悪循環のイメージ図
図表４　U/I/J ターンのイメージ
図表５　地方への人の流れを作る取り組み例
図表６　地域おこし協力隊とその定住率
図表７　地域に感じている魅力
図表８　U/I/J ターン者が移住前後で感じたギャップ
図表９　移住者と地元住民がお互いに求めること
図表 10　移住へのプロセスと支援
図表 11　移住・定住支援の取り組み事例
資料　仮想Ａ県Ｂ町の概要

〈グループワークテーマ〉

仮想Ａ県Ｂ町において，「テレワークで移住者を呼び込めプロジェクト」を実行することになった。これにより，受け入れる側と移住する側にどのような「想いのずれ」が生じ，それをどのように調整するかについて，議論しなさい。
（1）それぞれが受け入れる側と移住する側のいずれかの立場に立ち，Ａ県Ｂ町に対する「想い」について意見を出し合いなさい。
（2）受け入れる側と移住する側の「想いのずれ」から生じうる問題について検討した上で，もし，受け入れ自治体の立場に立った場合，どのように調整することができるのか，議論しなさい。

その際には，以下の点について考慮すること。
・レクチャー②資料冊子にある，「仮想Ａ県Ｂ町の概要」をもとに，議論を進める。
・受け入れる側，移住する側の意識としては，自己ワークの内容および以下に示す資料を参考とする。

〈グループワーク資料〉

資料　Ａ県Ｂ町の移住に関係する人たちの会話

〈ふりかえりレポート設問〉

問１　資料冊子を含むレクチャー②の内容に基づき，以下の設問に答えなさい。
（1）グループワーク冊子の「資料：Ａ県Ｂ町の移住に関係する人たちの会話」から，自家製ワインづくりツアーに参加した家族のような人たちの移住により人口が増えたとしても，レクチャー②資料冊子の【図表３】に示す項目のすべてが改善するとは限らないと考えられる。改善されないと考えられる項目を２つ選び，それぞれの理由について説明しなさい。
（2）I／J ターン者と U ターン者はそれぞれ，移住した地域の何に魅力を感じているか，その違いについて説明しなさい。なお，解答にあたっては，レクチャー②資料冊子の【図表７】における両者の上位項目と，割合が大きく違う項目をそれぞれ明示しなさい。
（3）レクチャー②資料冊子の「仮想Ａ県Ｂ町の概要」から推察される，Ａ県Ｂ町が抱える課題について，説明しなさい。

⇒ねらい：**レクチャー②の内容を正しく理解し，複数の資料を活用して課題を明確にし，自らの主張を組み立てる力をみる。**

問２　Ａ県Ｂ町は，定住人口を増やすために「テレワークで移住者を呼び込めプロジェクト」に取り組もうとしている。この取り組みによって生じると考えられる問題とその解決策について，以下の設問に答えなさい。
（1）Ａ県Ｂ町で取り組もうとしている「テレワークで移住者を呼び込めプロジェクト」を実施し，移住者を受け入れた場合，どのような「想いのずれ」が生じると考えられるか，グループワークでの議論の経過とともに説明しなさい。なお，あなたの考えとグループの考えが異なっていてもかまわない。
（2）資料冊子を含むレクチャー②の内容や問２（1）の「想いのずれ」をふまえて，受け入れ自治体がとるべき方策を述べなさい。なお，解答にあたっては，具体的な根拠（レクチャー②資料冊子，グループワークでの意見，高校までの学習内容，あなた自身の体験など）を示しながら述べなさい。

⇒ねらい：**グループワークでの他者の意見を参考に自らの考えを深め，自らの主張を根拠に基づいて論じるとともに，客観的に評価できる力をみる。**

問３　レクチャー①（１次選考），レクチャー②の受講やグループワークを通して，「想いのずれ」に関するあなたの考え方はどのように変化したか，または深まったか，述べなさい。

⇒ねらい：**レクチャー①，レクチャー②，グループワークにおける他者の意見をふまえて自らの思考の経過を整理し，論理的に説明できる力をみる。**

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートのポイント

・レクチャー②では，レクチャー①同様に説明される内容を，理解しながらメモをとり，自分の考えを整理しよう。
・グループワークでは，自分以外の受験者の意見を聴いて，自分とは違う考えがあるということも理解し，自分の考えをできるだけ深めるようにしよう。議論に積極的に参加することが，自分の考えの整理にも役立ちます。
・ふりかえりレポートでは，グループワークで議論したことを踏まえて，他者の意見をヒントに自らの考えを広げ，どのように変化したり，確かなものになったか，文章で表現しよう。

面接（口頭試問を含む。）

面接（口頭試問を含む。）の内容	基礎的な学習成果に基づく口頭試問，志望する学類での学修に対する意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では，「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。
「高校等での学習」の成果として重視する点	自身の興味や関心を整理し，入学後の学修を見通す力や態度が身についている。
評価する資質や能力	高等学校までの基礎的な学習成果および高等学校等での学びの実践に基づく，学類での学修に対する強い意欲や高い資質。

総合型選抜

昨年の口頭試問の内容例　（実際のものと表現は少し異なります。）

〈英語〉

【提示資料】

Yoko is going to have an exchange student flying in from Boston next Friday and she wants to take the student, (　　) name is Emily, out to eat. The problem is that Emily doesn't eat meat, and Yoko has to find a place that serves good vegetarian food. Yoko asks her boyfriend Kengo for help. Kengo recommends a place that is on Aoba Street, called Veggie Kitchen. He has never been there, but he says that he read a good review about it on the Internet. Yoko decides she will stop by the restaurant to get a menu on her way back home tomorrow because she thought she might get a better idea of the food they serve.

【口頭試問内容】

問１　(　　) に入れるのに最も適切な語をア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　who
イ　whom
ウ　which
エ　whose

問２　下線部の語の意味と最も近い語をア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　encounters
イ　proposes
ウ　impresses
エ　replies

問３　次の設問に対して，適切な答えをア～エから選び，記号で答えなさい。
How does Kengo know about the restaurant?
ア　He used to work there.
イ　He lives nearby.
ウ　He has eaten there before.
エ　He read someone's opinion about it.

問４　次の質問に，日本語で答えなさい。
What will Yoko do tomorrow? Why?

問５　この英文に付けるタイトルとして最も適切なものをア～エから選び，記号で答えなさい。
ア　A Classmate from Boston
イ　Yoko's Concern and Her Solution
ウ　Kengo's Difficult Decision
エ　Veggie Kitchen Party

〈数学〉

【口頭試問内容】

問１　x,y を実数とする。xy 座標平面における次の各問に答えなさい。

(1) 放物線 $y=x^2$ 上の点で y 座標が 9 であるものは何個あるか答えなさい。

(2) 関数 $y=x^3$ のグラフ上の点 (1,1) における接線の傾きを求めなさい。

問２　次の (1) ～ (3) の □ の中に入る最も適切なものを，下の (イ) ～ (ニ) から選択しなさい。ただし，x,y は実数とする。

(1) $(x-1)(y-2)=0$ は，$x=1$ または $y=2$ であるための □

(2) ΔABC が鋭角三角形であることは，∠A<90° であるための □

(3) ΔABC が鈍角三角形であることは，∠A>90° であるための □

(イ)「必要条件である」

(ロ)「十分条件である」

(ハ)「必要十分条件である」

(ニ)「必要条件でも，十分条件でもない」

学校推薦型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	**看 護 学 群**：24 名 **事業構想学群**：40 名 **食 産 業 学 群**：28 名
出願資格	令和５年度大学入学共通テストのうち指定する教科・科目をすべて受験し，次の (1) から (4) までのすべてに該当する方 (1) 高等学校または中等教育学校を令和５年３月に卒業見込みの方 (2) 志望する学群に対し，熱意と適性を有する方で，高等学校または中等教育学校の長が責任を持って推薦できる方 (3) 合格した場合には，必ず入学することを確約できる方 (4) 調査書の全体の評定平均値が 4.0 以上の方で，人物，学力とも特に優秀である方
推薦人数の概要	**看護学群** 推薦できる人数は，宮城県内の高等学校または中等教育学校からは１校あたり２人まで，宮城県外の高等学校または中等教育学校からは１校あたり１人とします。 **事業構想学群・食産業学群** 推薦できる人数は，宮城県内の高等学校または中等教育学校からは１校あたり各学群４人まで，宮城県外の高等学校または中等教育学校からは１校あたり各学群２人までとします。 ※詳細は令和５年度入学　入学者選抜要項を確認してください。
出願期間	令和４年 12 月 13 日（火）～令和４年 12 月 20 日（火）　【期間内必着】
令和５年度 大学入学 共通テスト	試験日：令和５年１月 14 日（土）・令和５年１月 15 日（日） 〈大学入学共通テストの利用教科・科目〉

教科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	合計
配点	200	100	100	200	250	850

■国　語：「国語」
■地理歴史・公民：「世界史 A」「世界史 B」「日本史 A」「日本史 B」「地理 A」「地理 B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理，政治・経済」から１
■理　科：「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から２または「物理」「化学」「生物」「地学」から１
■数　学：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」から１かつ「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から１
■外国語：「英語（リーディング・リスニング）」

※大学入学共通テスト「外国語（英語）」における配点について，リーディングとリスニングの配点比率を 4:1 とします。
※大学入学共通テスト「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を 250 点満点に換算して採用します。
※大学入学共通テスト「地理歴史・公民」を２科目受験した場合は，高い方の得点を合否判定に用います。
※大学入学共通テスト「理科」を２科目以上受験した場合は，高い方の得点（基礎科目は２科目で 100 点満点）を合否判定に用います。

選抜期日	面接実施日：令和５年２月５日（日）
選抜方法	大学入学共通テストの合計点，調査書，推薦書，自己申告書等の出願書類の内容及び面接の成績を総合的に判定します。
合格発表	令和５年２月 13 日（月）

2 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ！

・リーダーシップを発揮し，率先して様々な活動に取り組める方
・大学に入学してから，自分の進みたい道（学類）を決めたい方
・高校までの，偏りなく幅広く，継続した学習の成果が身についている方

3 入試科目「面接」の概要

評価する資質や能力	高校等での学びの実践に基づく，学群での学修に対する強い意欲や高い資質。

一般選抜［前期・後期］

1 選抜方法と日程

募集人員	**看 護 学 群**：前期　48 名 ／ 後期 10 名 **事業構想学群**：前期 100 名 ／ 後期 20 名 **食 産 業 学 群**：前期　62 名 ／ 後期 12 名
令和 5 年度 大学入学 共通テスト	令和 5 年 1 月 14 日（土）・令和 5 年 1 月 15 日（日）
出願期間	令和 5 年 1 月 23 日（月）～令和 5 年 2 月 3 日（金）　【最終日消印有効】
個別学力検査	**前期**：令和 5 年 2 月 25 日（土）　**後期**：令和 5 年 3 月 12 日（日） **看 護 学 群**：外国語（英語），論説 **事業構想学群**：外国語（英語），論説，数学 **食 産 業 学 群**：外国語（英語），理科，数学
	前期：令和 5 年 2 月 26 日（日）　**後期**：令和 5 年 3 月 13 日（月） **看 護 学 群**：面接
選抜方法	大学入学共通テスト，学群毎の個別学力検査の成績を基本として調査書等の内容を総合的に判定して行いますが，合否判定に用いた教科等において，得点のない教科等があった場合は合格者とはなりません。看護学群では，面接の評価が一定の基準に満たない場合は，合格対象から除外されます。事業構想学群及び食産業学群では，主体性等の評価のため，活動実績報告書を得点化して総合的な合否判定に用います。
合格発表	**前期**：令和 5 年 3 月 6 日（月）　**後期**：令和 5 年 3 月 20 日（月）

2 大学入学共通テストおよび個別学力検査の科目等

看護学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「論説」 「面接」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から 2　かつ「物理」「化学」「生物」から 1 または「物理」「化学」「生物」から 2	
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学 A」から 1 かつ「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学 B」から 1	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目または 5 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	1	2 または 3	2	1

大学入学共通テスト　理科の選択方法

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●理科において，「地学基礎」，「地学」は選択できません。
- ●理科の選択方法について，❶（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

事業構想学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「論説」 「数学」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1 または 2	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から 0 または 2 かつ「物理」「化学」「生物」「地学」から 0，1 または 2 地理歴史・公民・理科から 3 または 4	
数学	「数学Ⅰ・数学 A」かつ「数学Ⅱ・数学 B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から 1	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目，5 教科 8 科目，6 教科 7 科目または 6 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	3 または 4		2	1

大学入学共通テスト　地歴公民と理科の選択方法

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●❶または❷（地歴公民から 2 科目選択）の場合，公民からの 2 科目選択はできません。
- ●理科の選択方法について，❸（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

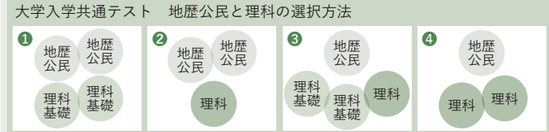
食産業学群　一般選抜（前期日程・後期日程）共通

大学入学共通テストの利用教科・科目等		個別学力検査
教科	科目	「外国語」 「理科」※ 「数学」
国語	「国語」	
地理歴史 公民	「世界史 B」「日本史 B」「地理 B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理，政治・経済」 地理歴史・公民から 1 または 2	
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から 0 または 2 かつ「物理」「化学」「生物」から 0，1 または 2 地理歴史・公民・理科から 3 または 4	
数学	「数学Ⅰ・数学 A」および「数学Ⅱ・数学 B」	
外国語	「英語（リーディング，リスニング）」	
5 教科 7 科目，5 教科 8 科目，6 教科 7 科目または 6 教科 8 科目		

大学入学共通テスト　選択科目数

国語	地歴公民	理科	数学	外国語
1	3 または 4		2	1

大学入学共通テスト　地歴公民と理科の選択方法



大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
- ●地歴において，「世界史 A」，「日本史 A」，「地理 A」は選択できません。
- ●理科において，「地学基礎」，「地学」は選択できません。
- ●❶または❷（地歴公民から 2 科目選択）の場合，公民からの 2 科目選択はできません。
- ●理科の選択方法について，❸（理科基礎あり 2 科目と理科基礎なし 1 科目の選択）の場合，理科は同一名称を含む科目同士の選択が可能です。
- ●「外国語（英語）」の取り扱いについて，受験上の配慮によるリスニング免除者は，リーディングのみの得点を換算して採用します。

※個別学力検査の「理科」は，「化学」，「生物」の 2 科目から 1 科目の選択となります。出題範囲は，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」の全範囲とします。

一般選抜（前期・後期）

3 入試科目「論説」の概要

論説の内容	課題文や資料（文章や図表等）を読み，設問に解答する。
「高校等での学習」の成果として重視する点	得られた事象や情報を整理・分析し，概要にまとめ，論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し，その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに，課題を見出し，高校等での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながら，その解決への道筋を考察し，論述できる力。

昨年の「論説」の内容例　（一部を抜粋しています。）

〈テーマ〉

「日本の空き家問題について」

〈与えられる資料〉

資料１　空き家の種類の説明
資料２　空き家の種類別にみた空き家数と空き家率の推移のグラフ
資料３　空き家の種類別にみた空き家率の上位１～５位，６～10位，11～15位の都道府県の図表
資料４　都道府県別の人口変動指数（2018年人口/2008年人口）と「その他の住宅」の空き家率の変化（2018年の空き家率－2008年の空き家率）との関係のグラフ
資料５　日本の空き家対策に関する文章

【文章の概要】
日本の空き家対策は2015年の空家法の全面施行により，危険な空き家などに対し自治体が様々な措置をとれるようになった。さらに，税制改正もあり，一定の効果は得られた。空き家の処分については，所有者が責任を果たすことが原則ではあるが，公費負担で自治体が処分に踏み切らざるを得ないケースや，かかった費用の回収目処が立たないケースが増えている。さらには，所有者が，所有に伴う税負担と売却困難な現状のため，所有権の放棄と維持のはざまに立たされるなど，新たな課題も生じている。

資料６　高齢化に伴う空き家問題に関する文章

【文章の概要】
所有者の高齢化に伴い，その物件を相続する子どもらの相続の時期も高齢化している。すでに自分の家や生活基盤を他の地で築いている相続者にとって，残された物件は，引き継ぐ価値の乏しいものである場合もあり，特に，管理の行き届かない賃貸住宅などは負の財産にもなる。そのような物件が空き家化していくことも少なくない。

資料７　日本の空き家問題に関する文章

【文章の概要】
「その他の空き家」に分類される空き家は，居住者がいない状態であるにもかかわらず，将来は使う，使うあてはないが愛着があるなどの理由で手放せない，あるいは，所有者の所在が不明などの理由で売却などの処分ができない住宅であることが多い。そのような空き家は第三者に悪影響を及ぼす外部不経済の問題を発生させる可能性が高くなる。

資料８　日本の空き家の現状等に関する文章

【文章の概要】
多くの普通に見える建物が使われなくなっているにもかかわらず，取り壊し，その土地を再活用することの費用対効果の問題から，取り壊せないでいる。その背景として，従来の産業の衰退と，その衰退を補うことができないほどの高齢化の加速と歯止めのきかない人口減少がある。膨大な量の，使われていないにもかかわらず取り壊しもできない建物は，高度経済成長期の「箱の産業」の名残とも言えるものである。産業の転換が求められている時代であるにもかかわらず，人口減少と高齢化率の高まりにより，そのような建物の取り壊しや建替えの実現可能性がますます低くなっている。

資料９　本問中に記載のグループ内の議論で絞られた，空き家の活用案

〈設問〉

あなたのクラスのイズミさんは，祖母が暮らす地域において空き家が多くなっていることに関心をもち，日本の空き家の問題を調べることにした。次の問１～問３に答えなさい。

問１　イズミさんは，本やインターネットから空き家に関する資料を集めた。まず，資料から空き家には４つの種類があることを知り，それぞれの空き家の特徴を次の資料１にまとめた。さらに，祖母が暮らす地域で増えている空き家の多くが，資料１の「その他の住宅」の空き家であることを知ったため，「その他の住宅」の空き家に注目して詳しく調べることにした。
資料２～資料４から読み取ることができる「その他の住宅」の空き家の特徴を，他の種類の空き家との違いを明確にしながら300字以内でまとめなさい。
⇒ねらい：**図を正確に読み取り，適切に事象を理解し，「その他の住宅」の空き家の特徴を，他の種類の空き家と比較しながら簡潔に文章にまとめる力をみる。**

問２　次にイズミさんは，各地で「その他の住宅」の空き家が増えている原因や，それに伴って生じる問題を調べるため，文献の資料５～資料８を集めた。これらの資料に基づき，次の問いに答えなさい。
（**１**）「その他の住宅」の空き家が発生する原因を読み取り，150字以内でまとめなさい。
（**２**）「その他の住宅」の空き家が発生することに伴って生じる問題を読み取り，150字以内でまとめなさい。
⇒ねらい：**複数の文章の内容を把握し，読み取った内容を与えられた視点から再編し，簡潔に文章でまとめる力をみる。**

問３　イズミさんの祖母が住む自治体では，一軒の「その他の住宅」の空き家を改修して活用することになり，その案を募集していた。このことを知ったイズミさんは，あなたやクラスの友人に呼びかけ，グループを作って応募することにした。グループ内で議論した結果，応募する案は，資料９に挙げたＸ～Ｚの三つに絞られた。次に，グループ内の各人がこの案の中から一つを選び，その案の良し悪しを確認するために，新たに資料を集めることになった。
あなたならどの案を選び，新たにどのような資料を集めるか。あなたが選ぶ案の記号一つと新たに集める資料三つを挙げなさい。さらに，それぞれの資料について，挙げた理由を述べなさい。あわせて400字以内で述べなさい。
⇒ねらい：**選択した案を実現しようとする実際の場面を想定し，高等学校での学習や自身の経験と関連付けながら，多様な視点から直面するであろう課題を見出し，解決への筋道を考察し，それらを論理的に文章にまとめる力をみる。**

論説のポイント

・１つのテーマに関する複数の資料（文章，グラフ，表等）について，それらを関連付けながら読み解くことができるようにしよう。
・課題になっていることは何か，自分ならその課題にどう対応するかを常に考えるようにしよう。その時に，自分の考えを補強するためにはどんなことを調べたらよいかも，あわせて考えてみよう。
・普段から，論理的でわかりやすい文章で表現できるように心がけよう。

4 一般選抜における主体性等の評価

一般選抜における主体性等の評価は，看護学群では，面接で行います。
事業構想学群と食産業学群では，出願時に調査書と対応した５項目のチェックリストを設け，「活動実績報告書」として出願者に自己申告していただき，全出願者分を採点することとします。記載内容の根拠は，調査書にて確認し，その他の追加資料（ｅポートフォリオ等）を求めることはしません。

主体性等の評価方法

看　護　学　群：面接（前期日程では２月26日，後期日程では３月13日に実施する）
事業構想学群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）
食 産 業 学 群：活動実績報告書（出願時に自己申告する）

〈「活動実績報告書」の内容〉

出願時に，以下の５項目のチェックリストを設け，出願者に自己申告していただきます。
出願者は以下の項目に関して自らの取組状況を振り返り，該当するかどうかを自己申告していただきます。

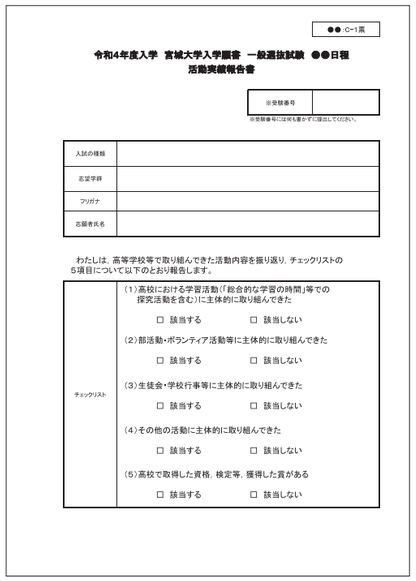
(1) 高校における学習活動に主体的に取り組んできた
(2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
(3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
(4) その他の活動に主体的に取り組んできた
(5) 高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある

※(1) には「総合的な学習（探究）の時間」等での探究活動を含みます。

記載内容の根拠の確認について

・調査書のいずれかの欄に１つでも該当する記述があれば，自己申告の根拠とします。
・調査書では「事実の記載があるかどうか」を根拠として確認します。記述の多寡は問いません。
・調査書が提出できない出願者については，インターネット出願サイトより出力される「活動実績報告書」に加えて，別途，具体的な取り組みについての自由記述による「活動実績報告書【追加記述用】」を作成し提出してください。

〔インターネット出願サイトより出力される活動実績報告書〕


●●：C-1系

令和4年度入学　宮城大学入学願書　一般選抜試験　●●日程
活動実績報告書

※受験番号	

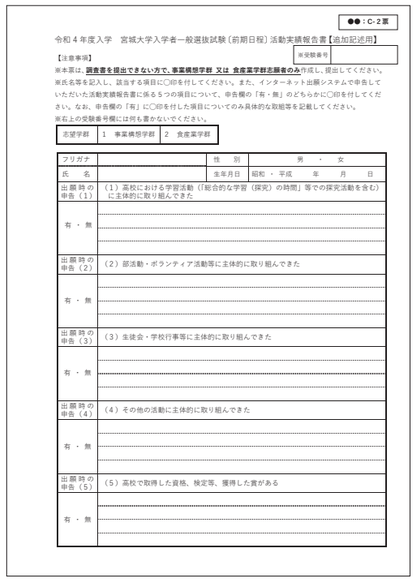
※受験番号には何も書かずに提出してください。

入試の種類	
志望学群	
フリガナ	
志願者氏名	

わたしは，高等学校等で取り組んできた活動内容を振り返り，チェックリストの５項目について以下のとおり報告します。

チェックリスト
(1)高校における学習活動（「総合的な学習の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた
☐ 該当する　☐ 該当しない
(2)部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
☐ 該当する　☐ 該当しない
(3)生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
☐ 該当する　☐ 該当しない
(4)その他の活動に主体的に取り組んできた
☐ 該当する　☐ 該当しない
(5)高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある
☐ 該当する　☐ 該当しない

〔調査書を提出できない方の活動実績報告書【追加記述用】〕


●●：C-2系

令和４年度入学　宮城大学入学者一般選抜試験（前期日程）活動実績報告書【追加記述用】

※受験番号	

【注意事項】
※本票は，**調査書を提出できない方で，事業構想学群 又は 食産業学群志願者のみ**作成し，提出してください。
※氏名等を記入し，該当する項目に☐印を付してください。また，インターネット出願システムで申告していただいた活動実績報告書に係る５つの項目について，申告欄の「有・無」のどちらかに☐印を付してください。なお，申告欄の「有」に☐印を付した項目についてのみ具体的な取組等を記載してください。
※右上の受験番号欄には何も書かないでください。

志望学群	1　事業構想学群　2　食産業学群

フリガナ		性　別	男　・　女
氏　名		生年月日	昭和　・　平成　　年　　月　　日
出願時の申告（1）	（1）高校における学習活動（「総合的な学習（探究）の時間」等での探究活動を含む）に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（2）	（2）部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（3）	（3）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（4）	（4）その他の活動に主体的に取り組んできた		
有　・　無			
出願時の申告（5）	（5）高校で取得した資格，検定等，獲得した賞がある		
有　・　無			

（※令和４年度入学者選抜で使用したものです。令和５年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。）

入学者選抜方法についてのQ＆A

●総合型選抜に関すること

Q 1 **総合型選抜には，学校長の推薦書が不要となっていますが，高校等の卒業見込み者だけでなく，既に高校等を卒業した者でも出願できますか。**

A 1 総合型選抜の出願資格は，学校推薦型選抜と異なり，必ずしも高校等の卒業見込み者であることを求めているわけではありません。令和５年度入試では平成 12 年４月２日以後に出生された方で，その他の要件を満たす方であれば，出願資格があります。

Q 2 **調査書の評定はどのくらい必要ですか。**

A 2 総合型選抜では，出願要件としての基準を設けていません。評定だけではなく，調査書の内容を総合的に評価します。（注：学校推薦型選抜の出願要件については，調査書の全体の評定平均値が４．０以上としています。）

Q 3 **自己申告書（1ページ目）に記載できるのは，学習の成果だけですか。部活動等について記載しても評価されないのでしょうか。**

A 3 学習成果（各教科の学習，ホームルーム活動，生徒会活動および学校行事での成果）を評価対象としています。部活動や校外での活動を除外するものではありませんが，「学習成果」と関連付けて記載してください。

Q 4 **レクチャー①，レクチャー②の内容は志望する学群・学類に関連した内容が出るのですか。**

A 4 全学類の受験者に対して同じ内容のレクチャーを行いますので，必ずしも志望する学群・学類に関連した内容ではありません。

Q 5 **レクチャー②は，第1次選考のレクチャー①と関連する内容ですか。**

A 5 レクチャー②の内容は，レクチャー①のテーマを踏まえ，多様な視点を加えて発展させたものを予定しています。

Q 6 **レクチャーレポート作成のためには，どのような対策が必要ですか。**

A 6 高等学校等での授業の時に先生が話した内容についてメモをとり，自分で整理することがとてもよいトレーニングになります。

Q 7 **総合型選抜で入学することのメリットは何ですか。**

A 7 総合型選抜合格者は，入学時から学類が決定しているため，１年次から，各学類の２年次からの専門的な学びを見通した学修に取り組むことができます。

Q 8 **学校推薦型選抜・一般選抜との併願はできますか。**

A 8 本学の学校推薦型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし，総合型選抜に合格し，入学手続を済ませた後は，他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。

●学校推薦型選抜に関すること

Q 9 **総合型選抜・一般選抜との併願はできますか。**

A 9 本学の総合型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし，学校推薦型選抜に合格し，入学手続を済ませた後は，他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。なお，他の国公立大学の学校推薦型選抜とは併願できませんので，注意してください。

Q 10 **大学入学共通テストの得点はどのように扱われますか。**

A 10 本学が指定する教科・科目の大学入学共通テストの合計点は，出願書類の内容および面接の成績とともに，総合的な合否判定に利用します。

●一般選抜に関すること

Q 11 **数学や理科の個別学力検査の出題範囲を教えてください。**

A 11 事業構想学群と食産業学群で課される数学においては，「数学Ⅰ」「数学 A」「数学Ⅱ」「数学 B」の全範囲から出題します。ただし，「数学 A」は「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」の３項目の内容のうち２項目以上を，「数学 B」は「数列」「ベクトル」「確率分布と統計的な推測」の３項目の内容のうち２項目以上を学習した者に対応した出題とし，問題を選択解答できるようにします。
また，食産業学群の個別学力検査において，理科は「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」から１科目の選択とし，いずれも全範囲からの出題とします。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う入学志願者への配慮等について

各選抜出願受付の約２か月前に本学ウェブサイトにて公表する，学生募集要項にてご案内します。

令和４年度入学　入試結果

入試の単位	区　分	学群	学類	募集人員	出願者数	第１次選考受験者数	第１次選考合格者数	第１次選考実質競争倍率	第２次選考受験者数	第２次選考合格者数	第２次選考実質競争倍率	実質競争倍率（全体）	入学者数
学類単位の入試	総合型選抜	看護学群	看護学類	8	63	63	24	2.6	24	12	2.0	5.3	12
		事業構想学群	事業プランニング学類	8	27	27	16	1.7	16	11	1.5	2.5	10
			地域創生学類	8	31	31	17	1.8	16	11	1.5	2.8	11
			価値創造デザイン学類	8	33	33	18	1.8	18	15	1.2	2.2	15
		食産業学群	生物生産学類	8	21	21	14	1.5	14	13	1.1	1.6	13
			フードマネジメント学類	8	24	24	18	1.3	18	13	1.4	1.8	13

入試の単位	区分	学群	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	入学者数
学群単位の入試	学校推薦型選抜	看護学群	24	75	75	26	2.9	26
		事業構想学群	40	93	93	46	2.0	46
		食産業学群	28	43	43	31	1.4	31
	一般選抜（前期）	看護学群	48	109	80	53	1.5	53
		事業構想学群	100	300	245	115	2.1	110
		食産業学群	62	220	183	75	2.4	70
	一般選抜（後期）	看護学群	10	135	32	11	2.9	10
		事業構想学群	20	306	108	28	3.9	17
		食産業学群	12	293	84	15	5.6	10

令和４年度出身校所在地別志願者数・入学者数

出身校所在地	看護学群						事業構想学群						食産業学群					
	志願者数			入学者数			志願者数			入学者数			志願者数			入学者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北海道	0	0	0	0	0	0	1	4	5	1	1	2	5	4	9	1	1	2
青森県	7	24	31	1	6	7	10	22	32	2	8	10	9	16	25	1	3	4
岩手県	2	26	28	1	5	6	22	23	45	8	7	15	7	30	37	2	9	11
宮城県	12	238	250	3	68	71	297	276	573	66	81	147	110	154	264	20	49	69
秋田県	0	13	13	0	4	4	10	11	21	3	5	8	5	22	27	0	10	10
山形県	0	15	15	0	4	4	17	19	36	4	7	11	9	22	31	2	5	7
福島県	2	16	18	0	3	3	9	22	31	2	6	8	12	25	37	2	5	7
東北６県	23	332	355	5	90	95	365	373	738	85	114	199	152	269	421	27	81	108
関東	1	9	10	1	2	3	14	15	29	4	2	6	24	37	61	4	3	7
中部	5	7	12	1	2	3	9	6	15	2	0	2	31	45	76	6	10	16
近畿	1	4	5	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6	5	11	0	0	0
中国・四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	11	0	2	2
九州・沖縄	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4	6	10	1	1	2
その他	1	2	3	0	1	1	3	1	4	1	0	1	2	1	3	0	1	1
合計	31	354	385	7	95	102	393	400	793	93	117	210	228	374	602	39	99	138